

2021 年度教育編成委員会 会議議事録

1. 日時：2021 年 7 月 27 日 17:00～18:00

2. 場所：日産愛媛自動車大学校 第 9 教室

3. 参加者 学校外委員

出席者 有職者代表 愛媛大学 教授 工学博士 中原 様

企業代表 愛媛日産自動車（株）サービス部 田村 様

企業代表 日産プリンス愛媛販売（株）サービス部 樋口 様

学校内委員

出席者 日産愛媛自動車大学校 校長 分部

日産愛媛自動車大学校 部長 高橋

日産愛媛自動車大学校 科長 西浦

4. 教育編成委員会内容

1) 現在の学校がおかれている現状説明

高橋委員）昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受け、卒業式・入学式は学生・職員のみとし式典は YouTube で配信対応した。また、昨年度同様、新入生合宿研修や 2 年生の研修旅行も中止した。学生の濃厚接触者や経過観察者に対しては、オンライン授業で対応し、授業の遅れが出ないように対応した。現在、日産 5 校では ICT 教育を策定しておりオンデマンド教材の活用が出来る環境を整備し、国家試験の完全合格にチャレンジする。校内設備は第 2 実習場に空調設備が完備され、夏場の熱中症対策、学生の実習環境が改善された。さらに今年度、国際自動車整備科を開設した。これにより一級自動車工学科 28 名、自動車整備科 48 名、国際自動車整備科 19 名、合計 88 名が新入生として入学し、昨年度より 5 名の学生が増加した。

2) 開会あいさつ

分部委員）現在、学校教育は岐路に立っている。どのように生き残りをかけて進んでいくか考えるにあたり、この委員会は大変重要と受け止めている。本日は皆さんの意見を貴重なものとしてお聞きしたい。

3) メンバー紹介（学校外委員 3 名、学校内委員 3 名）

4) 各委員の選出

・委員会の進行を学校の高橋、書記係に学校の西浦を任命。賛同を得て承認。

5) 第 1 回教育編成委員会 意見と受け止め

— 議事 —

□意見と受け止め（1）

・大学において現在行われている ICT 教育内容

中原委員） ICT 教育は大学として、それほど進んでいない。本学では ICT 利用促進室が設置され、昨年度よりコロナ禍の影響を受け、大学も基本的に遠隔授業を行っており、実技系の実験授業については対面授業を入れながら行っているのが実情である。ICT 利用促進室がサポートしている内容として、eラーニングコンテンツ利用・活用支援として、メディアスタジオ設置、及び機材の貸し出しを行っている。コロナ前から、各学部にはカメラを設置してある部屋もあるが、プライバシーの観点から利用は活発ではない。各先生が各部屋で個別のツールにより遠隔授業を行っているのが現状である。Web システムは Teams, WebEX, Zoom を使用している。ICT 機材は一部の先生の使用にとどまっており、個人ベースの活動である。また、推進室では eラーニングのベースになっている Moodle ポータルサービスを行っており、その講習会を行っている。Moodle は四国の複数大学で使用されており、コンテンツを乗せることで、学生・教員が利用でき、遠隔・対面授業で活用できるサービスである。今年度から、PC を学生に必携化した。学生は OS のみの PC が用意できれば、大学は Office 等ソフトを無料提供する。学部の各部屋には無線 LAN を装備しノート PC、タブレット等が使用できる環境であり、コンテンツを共有しながら、遠隔・対面授業に活用している。

ICT 教育のメリット

- ① いかなる場所でも、同じ教育が受けられることである。
- ② オンデマンド教材では、繰り返し見れる特徴があり、試験前等に解らない部分を繰り返し見れる事が、学生に評価されている。この部分は学習効果があると感じている。
- ③ 今後は、色々な教員のコンテンツをデータベース化して授業に使用できるようになれば、将来、教育内容が変わった場合にも対応できると考えている。

ICT 教育のデメリット

- ① 学生の習熟度を管理できない所である。理解度と習熟度をどのように進めて行くかが課題である。
- ② 遠隔ではどのようにコミュニケーション（先生⇄学生・学生間）を取らせるか方策が必要。遠隔授業では学生からの質問がほぼ無いが、対面で行うと個別に学生から質問が出る。
- ③ 遠隔では、学生の行動をすべて把握できないので、期末試験等の評価が厳格化できないのが課題。昨年度、入学試験を遠隔で行ったが、評価についてはやはり模索している部分がある。

ICT 教育について促進室が行ったアンケートの学生 Voce を紹介する。

「科学や物理などの授業で実験が行えない際に、端末で動画が見れると良い」、「人体の構造の授業では画像を見ながら学習できると良い」、「障害をもった学生に対し電子機器で多くの情報が伝えられたら良い」、「自分の意見を講義フォーラムで全体の意見交換をしたい」、「自宅から他大学と協力して研究授業を行う」、「社会人スキルを上げる授業に活用する」、「動画授業は眠くなる」などの意見が出ている。

分部委員) ノート PC は絶対に必要か？

中原委員) もともと PC 必携化している学科もあったが、機械系では製図の授業が CAD であり、特にコロナ化では宿題に PC が無いと対応できない側面がある。PC の性能に関しては一定のソフトが動作できるスペックを提案している。

分部委員) ICT 授業の効果を上げるために大学として取り組んでいることはあるか。

中原委員) 大学としては教員スキルアップのための動画を配信し対応している。授業アンケートを実施し FB も行っている。

分部委員) 大学での教員評価方法はどのようにして行っているのか。

中原委員) 大学における授業は、教員本人のスキルが認められている。不適切な行動が無ければ、教員同士が干渉することが無い。授業アンケートで教員は評価される機会があるが、それが大学自体の評価にはなっていない。大学には表彰システムがあり、スキル向上の一助としている。半期ごとに授業参観を設定し、公開授業を行っている。

分部委員) 国立の学校同士で授業見学をするような連携はあるか。

中原委員) 基本的には無いが、農学部は四国で連合・連携を取っており、共通でどこでも授業を受けられる環境は実現している。将来的には遠隔で可能になれば、教員数の削減や大学の統廃合を懸念する声も上がっている。卒業研究等で連携が取れば、授業のメリットになるので推進している。

□意見と受け止め(2)

・日産販売会社アンケート

高橋委員) 毎年、実施されている日産販売会社の卒業生に対する学校ごとのアンケート結果について報告する。評価の低い項目「サークルチェック」「車両の取り扱い・気配り」については、毎回、授業開始時に学生に行わせている。回数は多いが、繰り返し感が強く、マンネリ化の儀式授業になっている為、意識づけ等の対策を行っていく。日産 5 校での比較では、愛媛校が低い評価項目として「お客様を気遣った行動が出来る」「目的・目標を意識した行動が出来る」であるが、5 校全体で高い評価項目は「清潔感のある身だしなみをしている」である。愛媛校内の自動車整備科と一級自動車工学科の比較では「基本的な電気回路の理解」について大幅に工学科が高い評価となっている。電気が苦手な整備科学生に比較すると +2 年での習熟が出来ている結果と受け止めている。「コンサルトで故障部位の特定」「理論的に順序立てた故障診断」では、特に自動車整備科が低く、授業内容で理解度が進みにくい内容と受け止めている。今後、コンサルト授業時間の増加を行い対策していく。対応力・日常業務については、「身だしなみ」は高評価であるが「目的・目標を意識した行動」は低い評価となった。特に「TPO に応じた挨拶」、「報・連・相」は工学科が高い評価となっている。

田村委員) 「コンサルトの基本操作」については工学科より整備科のほうが高い評価結果は意外に感じている。要因はあるか？

高橋委員) 10 台のコンサルトで授業は対応しており、エンジン分解後の調整作業でコンサルトを使用する授業は行っている。

樋口委員) 昨年、入社の卒業生はコンサルトを使用できている。授業で行っている想像は出来る。

西浦委員) コンサルトの学習内容は学年で、段階的にレベルが分かれており、整備科では整備要領書の分解要領閲覧、要領書に沿った点検・調整作業がメインであるのに対し、工学科では、ダイアグノーシスによる故障診断がメインになる。課題としては反復練習が少ないために整備科で行った基本操作を忘れていく可能性がある。なるべく反復させる総合実習を行っていく。

分部委員) 販社アンケートの結果は重く受け止めている。日産校では中期計画において、自主性・主体性を伸ばす取り組みを行ってきた。愛媛校は「目的・目標意識」、「自分の頭で考えて、お客様に合った行動が出来る」が低く、どうやれば、学生がこの項目を向上させることが出来るかが大きなテーマと感じている。愛媛大学では、どうやって自主性・主体性を伸ばす取り組みをされているか伺いたい。合わせて、現場でどうすれば自主性・主体性が引き出せるか伺いたい。

中原委員) 大学でも基礎能力はあるが、学習に対しては意欲がわからない学生が多くなってきているのは事実である。学生のモチベーションを上げる方法は正直、難しく感じている。大学では4年生になると各研究室に配属になり、各、教員と具体的に何がしたいか(目標)を話し合う機会になるが、学生はほぼ無い。何がしたいか学生から出るには正直、時間が掛かる。社会科見学など現場に行き、本人に気づき(本人が恥ずかしいと感じる等)の体験が効果的。出来てない事が恥ずかしいと思わせる訓練が必要。授業の中では難しいが、何かしら体験をすることが有効だと感じる。

西浦委員) 愛媛校でも大半が学内授業だが、4年生のインターンシップや2年生の企業研修では、体験の機会がある。大学では体験の機会はあるか。

中原委員) 大学では3年生で工場見学など行っており、インターンシップを通じて、実際の仕事で役に立つ知識が得られることを学生が知る機会にはなる。インターンシップは選択科目なので全員が行くわけではなく、発表会も参加自由で行っているが、参加者はそれほど多くないのが実情。

西浦委員) インターンを受け入れる企業は十分あるか。

中原委員) それほど多くなく、特に大手企業は入社するより難しい現状。中小企業は付き合いもありインターン受け入れを理解いただいている。

田村委員) 学生の目的は、将来に役立つ学習をする事では無く、学校を卒業する事が目標になっているのではないか。専門学校に限らず、大学においてもとりあえず卒業することが目的になっていると感じる。実習なども学校の授業をクリアする為の勉強になっているのではないか。点検作業においても安全・安心に車を使用できる為に行う意識に到達していないので、部品交換、点検は出来るが、理由説明や提案は出来ない。実際、使用している車や壊れている車に触れる学習機会があると良い。

分部委員) 卒業もだが、資格を取りに来ている学生も多いと感じる。お客様の視点に立った考え方が出来る教育が必要。

中原委員) 大学でもキャリア形成のために企業の方に話を頂く機会はある。学生にはきっかけが大事だと感じるので、このような機会を多く与えてもらいたい。

樋口委員) 仕事に対する責任感は新入社員時点では厳しいと感じる。学校でも1人作業等で責任感を持たせる授業や、報告、連絡、相談の重要性を教える授業を取り入れ、就職時に自信を持たせてほしい。

□意見と受け止め（3）

・昨年度、国家試験結果

高橋委員） 残念ながら、全員合格には至らなかった。1級は2名不合格になり、元もと学力は低い学生であったが、今後、多様化する学生に対応が出来るよう、受験計画の前倒し及び学生の資質に合わせた対応を行い、今年度、完全合格を目指したい。2級では留学生が1名不合格になった。学力は十分合格できるレベルであったが、緊張により、普段の実力が発揮されなかった。留学生には試験時のメンタル面も十分指導していく必要性を感じた。

□意見と受け止め（4）

・卒業生の技術レベルについて

高橋委員） 現在、日産校の優位性である日産資格の取り組みとして①日産3級整備士、2級整備士②電動パワートレイン基礎教育、技術教育を取得させているが、これらの資格が販売会社の業務の中でどの程度活用できているか又、不足している部分があれば伺いたい。

田村委員） 入社時の業務は点検作業がメインになり、日産資格が業務に活用できているかと問われると正直解らない。資格取得していることで本人の自信には繋がっているとは考えている。上級資格にチャレンジするために、早期取得は必要な事であり、本人のステップアップには必要な事だと思う。

販売会社の整備士全員が日産資格取得に意欲的では無いのが現状である。

樋口委員） プリンス愛媛でも日産資格取得意識は低い。社会的にも資格手当等が優遇されているとはいえない。

田村委員） 資格手当が優遇されたとしても取得意欲が上がるとは思えない。営業所の中で勉強する雰囲気が高まった所では勉強して受験に結びついている。全国的には会社規定で取得を義務化している話も聞いたことがある。

分部委員） 資格取得に関しては、募集活動時に上位資格のメリットを聞かれる場面が多いが、具体的に示せないのが現状である。日産校の優位性を訴求できるようメリットを策定いただきたい。

□意見と受け止め（5）

・今年度新設した 国際自動車整備科について

高橋委員） 留学生のみの独立クラスとし、1年次に日本語能力試験 N3 取得、2年次に N2 取得を目指す。整備士に必要な日本語力、基礎的な整備の知識、技術、自動車業界を学ぶことにより、2年次に自動車整備科において、無理なく授業についていける能力を身に付ける。

分部委員） 正直、地方の学校なので、優秀な留学生が入学してくるとは思っていないが、日本語の専門講師による補講を行っている事や、この学校の特徴として全校では、留学生は少数であるため、必然的にコミュニケーションを取るのが日本人になる。そのため日本語力が付くのは早い。アルバイトなども日本語力を上げる一助になっている。課題としては、大都市圏の就職希望がほとんどであり、地方に残らない事である。好事例としては、山口日産に留学生が内定出来たことである。お互いのベストマッチングの事

例であり、今後も期待している。アルバイトやインターンなどで地方定着にご協力いただきたい。

田村委員) 入学する留学生に年齢制限はあるのか？

分部委員) 基本的には無い。年齢的には幅の大きい構成で入学してくるのが現状である。

・その他

中原委員) 現在、自動車には新しい技術が搭載されているが、国家資格にも内容は入ってきているのか？

高橋委員) 1級の内容が2級に降りてきた部分も確認はされている。

西浦委員) 現在、2級資格は、ガソリンエンジン搭載車とジーゼルエンジン搭載車に区分されており、1級資格は、小型自動車に区分されている。1級資格教科に自動車新技術があり、その中に自動車に搭載される新しい技術が盛り込まれているが、各メーカーの秘匿事項が多いため、内容改定が進んでいない。今後、改定が進むと予想される。

6) 閉会あいさつ

以上